

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【学校の現状】**

新校舎での生活も軌道に乗り、落ち着いて教育活動が展開されている。伝統ある本校に対する地域・保護者の期待は大きく、大変協力的である。児童は明るく素直だが、学習面や生活面で配慮を要する児童も散見される。教員の異動により、年度当初は組織的な対応に課題があった。また、若手教員の割合も増え、個々の指導力向上と目標達成に向けた共通意識・行動の醸成も引き続き課題であるが、力量のあるベテラン教員も多く、OJTを通して若手の力を伸ばすことができる土壌は整っている。

【前年度の成果と課題】

1 確かな学力の育成

区学力調査の通過率は、国語 85.5%、算数 87.5%、全体 86.5%で、それぞれ昨年度比 15、20.1、17.5ポイント上昇し、区平均値を上回った。これは学力調査や単元テストの結果を学力ポートフォリオにまとめ、一人一人のつまずきや課題を明確にした上で、朝学習や放課後個別指導を学校全体の取組として積み上げた成果と考える。反面、意識調査では「勉強が好きだ」等の学習意欲に関する項目で数値が区平均を下回る傾向も明らかになった。学習指導要領の改訂に伴い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、児童の「学びに向かう力」を醸成していくことが課題であった。

2 豊かな心の育成

学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」のに対して、ほぼ100%の保護者が肯定的な回答を寄せ、前年度を上回った。日常的な指導に加え、PTAの協力も得て取り組んでいる毎朝のあいさつ運動、なかよし（縦割り）班活動や未就学児や高齢者等と触れ合う学習、いじめ防止やユニセフ募金に関する集会等の取組も効果を上げていると考える。すべての児童に思いやりの心をもって優しく接しようとする気持ちを育むために、上記取組を継続し、内容面をさらに充実していこうと考えた。

3 健康増進・体力向上

運動朝会や運動行事旬間の実施、スポーツ大会への積極的な参加も取り組んできたが、体力調査の結果で都平均を上回った学年や項目は約半数である。体育科では運動量の確保以外に運動意欲を高める工夫や運動の行い方の工夫を行い、豊かなスポーツライフを見据えた体力づくりを推進しようと考えた。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上**

○朝学習と連動した放課後補習教室の積み上げ

- ・火曜と水曜の始業前10分間、担任が漢字と計算等の既習事項確認テストを実施、即日採点、返却。
- ・把握したつまずきに応じた演習等、定着状況に応じた週3日の放課後頑張り教室での個別指導。

○若手を中心とした全教員の授業力・指導力の向上

- ・足立SDに基づく授業展開や板書及びノート指導の統一。
- ・教科指導専門員等による授業観察や指導、校内及び小中連携事業での研究を柱とした授業改善。

○家庭学習の推進

- ・基礎基本の定着を図るため、1～3学年は15分×学年、4～6学年は60分の家庭学習を課す。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

○心の教育の推進

- ・道徳授業地区公開講座での「いじめ」に関する授業公開と協議、研修の実施。
- ・人権教育年間指導計画に沿った教育活動の充実。

○異年齢集団での活動

- ・なかよし班ごとの自主性を生かした集会や遊びの設定と異学年同士のランチルームでの給食の設定。
- ・連携園の「小学校体験」や高齢者施設を訪問しての交流及び「共生」について学ぶ授業の実施。

○自尊感情や自己肯定感を高める支援の充実。

- ・特別活動等を通じた児童の活躍の場とそれを認める機会の拡充を図る。

重点的な取組事項－3 体力向上

○体育科授業の改善

- ・体育科の公開授業、協議を各学級一回以上実施及び実技を含む体育科の校内研修を実施。

○年間を通じた体力向上の取組

- ・休み時間を活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動旬間の設定。
- ・高学年希望者のスポーツ大会への参加及び練習指導

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

- 区学力調査の通過率は国語 79.8%、算数 82.5%それぞれ昨年度に比べ5ポイント程度下がった。ただし、区の平均値は上回り、ほぼ全学年・教科で通過率は75%を上回った。また、都や国の調査でも正答率は都・国の平均を上回り、学力ポートフォリオ等に基づく朝学習や放課後個別指導を学校全体の取組として積み上げてきた成果は出ていると考える。
- 「書く」能力が安定しているのは、ノート指導や百マス作文等の統一実施の効果と考える。授業研究が文化として根付きつつある本校では若手教員も基礎的な指導力を伸ばしている。
- 国語の言語面や算数の技能面は区調査等で平均的な正答率を得たが、観点の中では弱い部分である。取組の質的な改善によってさらなる基礎学力の定着を図ることが課題である。
- 意識調査では「勉強が好きだ」や「宿題がない時でも家で勉強する」といった数値が依然区平均を下回る状況が続いており、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、児童の「学びに向かう力」を醸成していくことが課題である。
- 設定した家庭学習の時間が「できた」と回答した割合は82%である。推移は少なく、未定着の家庭に対するアプローチを工夫し、実施率の向上を図ることで全体的な学力向上につなげたい。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

- 学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」に対して、100%近くの保護者が肯定的な回答を寄せ、前年度をさらに上回った。なかよし班活動や未就学児・高齢者等と触れ合う学習、いじめ防止やユニセフ募金に関する集会等の成果と考えられる。継続し一層充実させていきたい。
- 新設した「自己肯定感」や「自尊感情」の育成に関する設問は肯定的な回答が97%と高かったが、挨拶や自己表現、挑戦意欲等には改善の余地がある。思いやりをもって他人に接しようとする気持ちを育むとともに、自らもかけがえのない存在として大切にしようとする心も育てていくことが課題である。

重点的な取組事項－3 体力向上

- 体力調査の結果は改善傾向にある。
- 依然として都の平均値を上回った学年や種目は約半数に留まっている。特に中学年以降の記録の伸びが低調であること、中でも区が掲げる「投力」でその傾向が顕著なことに課題がある。運動朝会や運動行事の充実、スポーツ大会への参加奨励、体育科の授業改善等により運動意欲の向上と運動の日常化を一層進め、豊かなスポーツライフを見据えた体力づくりを推進していくことが課題である。投力については、組織的・計画的な取組を立ち上げて改善を図る。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

- ☆今年度も保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと、充実した教育活動が展開できましたことに感謝申し上げます。
- ☆重点目標に掲げた「学力向上」については、日々の授業改善と児童一人一人のつまずきの解消に向けた取組の充実が結果、学校全体として安定した成果を残しています。学習指導要領の改訂に伴い、来年度は高学年の授業時数が増加しますが、本校では授業時数を確保したうえで、来年度も放課後がんばり教室等の学力向上に資する教育活動を継続していく予定です。学力向上にはご家庭の協力も欠かせません。家庭学習が習慣として確立するよう、引き続き各家庭でのご支援をお願いいたします。
- ☆今年度は「豊かな心の育成」も重点目標としました。いじめ解消に向けた道徳授業の充実や教員研修の実施、情報交換の徹底等で早期発見、早期対応を心掛けてきました。また、思いやりの心を育む異年齢集団の交流も積み上げました。さらに、自己肯定感や自尊感情を高めることも同様に重視し、活躍や認められる場の設定にも力を入れています。自他ともに大切にできる、真に「思いやりのある子」の育成に向けて、今後とも取組を継続・発展してまいります。
- ☆「体力向上」も引き続き重点目標に掲げ、学校全体で取り組んでいます。本校の恵まれた環境を十分に活用した体育科の授業改善や持久走大会等の運動行事の充実を目指しました。外遊びの励行、区や地域が主催するスポーツ大会等への参加等も継続していますが、中学年以降の体力調査の数値には未だ改善の余地があります。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育むことの大切さを保護者や地域の方にも共有していただき、手を携えて運動大好きな子どもたちを育てていきましょう。
- ☆本校の宝は、どこまでも素直な子どもたち、熱意溢れる教職員集団、そして学校を支えてくださる保護者の方々やPTA、図書ボランティアのメンバー、開かれた学校づくり協議会をはじめとした地域の皆様です。今後とも本校の教育活動に対するご支援をお願いいたします。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る＞

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
文章を書く力、文章を読み取る力、計算力、文章問題を解く力の育成、「学びに向かう力」の育成	区学力調査通過率 85%	区学力調査の通過率 国語 79.8% 算数 82.5%	目標は下回ったが、区の平均値は上回り、取組は一定成果を上げている。国語の言語面や算数の技能面が観点の中では弱い。 意識調査では「勉強が好きだ」等の数値が依然区平均を下回っており「学びに向かう力」を醸成していくことが課題である。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
相手のことを考えて行動したり、相手のことを認めて力を合わせたりすることができる「思いやりのある子」の育成	学校評価項目「児童は楽しく学校生活を送っている」の肯定的回答が9割以上	学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」に対して、100%近くの保護者が肯定的な回答を寄せ、前年度をさらに上回った。	異年齢交流活動やいじめ防止集会等の積み上げの結果と考えられ継続したい。新設した「自己肯定感」等の育成に関する設問は肯定的な回答が97%と高かったが、挨拶や自己表現等には改善の余地がある。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育の推進	道徳科等での「いじめ」に関する授業を3回以上実施、人権教育年間指導計画に沿った教育活動の充実	道徳授業地区公開講座での「いじめ」に関する授業公開と協議、研修の実施。人権教育年間指導計画の組織的で定期的な振り返りと評価する機会の設定	いじめに関する授業は道徳科を中心に3回以上実施。講座は協議会参加者が少なかった。人権教育は計画通り実践したが、振り返りや評価の機会を設定できなかった。	今後は授業の質的向上と、学習内容を家庭と共有することが課題である。 人権教育のマネジメントにも課題を残した。	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
異年齢集団での活動	なかよし（縦割り）班での活動5回以上、交流給食2回、高齢者施設の訪問3回以上、幼稚・保育園との交流4回	なかよし班ごとの自主性を生かした集会や遊びの設定、異学年同士のランチルームでの給食の設定 連携幼稚、保育園の「小学校体験」や高齢者施設の訪問や出前による、「共生」について学ぶ授業の実施	なかよし班活動は9回実施し、交流給食と同様、発達段階に応じた自主性や協調性を育めた。 連携園や高齢者施設との交流も相互理解や自己理解の伸長に効果的だった。	異年齢集団での活動はどれも「思いやりの心」を育む上で有効性が確認できている。十分な時間の確保と内容の厳選が課題である。	○
自尊感情や自己肯定感を高める支援の充実	自尊感情測定尺度「自己評価シート」（東京都版）の平均値が3以上	特別活動等を通じた児童の活躍の場とそれを認める機会の増大。職員の打合で「児童のよさや活躍」についても情報共有。	地域や区の行事に多く参加し、朝会では毎回児童表彰を行った。自尊感情測定できなかったが、学校評価では、97%が育成されているとの回答を得た。	取組の情報発信に力を入れ、自己肯定感や自尊感情の重要性を地域や家庭と共有していくことが課題である。	○

重点的な取組事項－3 体力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な子供の育成	都運動能力調査で都平均値を上回る学年や種目が7割以上、学校評価項目「学校は体力向上の工夫をしている」の肯定的回答が9割以上。	調査の結果は改善傾向にあるものの、依然として都の平均値を上回った学年や種目は約半数に留まっている。	特に中学年以降の記録の伸びが低調であること、中でも区が掲げる「投力」でその傾向が顕著なことに課題がある。 運動意欲の向上と運動の日常化を一層進める必要がある。	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育科授業の改善	都体力調査の児童質問紙調査項目「体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答 95%以上	体育科の公開授業、協議を各学級一回以上実施。 実技を含む体育科の校内研修会を3回以上実施	体育科の公開授業と協議、実技を含む体育科の校内研修は予定通り実施した。 しかし、授業力に個人差が見られる現状がある	「体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答は84%だった。調査結果の詳細な分析と授業の質的向上が課題である。	○
年間を通じた体力向上の取組	運動朝会 10回以上、運動行事とそれを含む旬間の実施 5回、区主催のスポーツ大会にすべて参加。	休み時間を活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動旬間の設定。 高学年希望者のスポーツ大会への参加及び練習指導と大会参加	達成基準はすべてクリアした。運動行事等については改善も進めたが、体力調査の結果に反映するまでには至っていない。	運動の日常化を目指し、達成的な楽しさを味わわせる視点からの取組の改善が課題である。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己の運動記録に挑戦する意欲の高揚	全児童が年間を通じた個人の体力カード活用、行事や運動月間ごとに学校記録を更新	体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を蓄積 連合運動会等も含めた学校最高記録を職員室前に掲示。オリンピック種目については、世界記録等も表示	体力カードによる記録の蓄積は継続したが、運動実践に結び付けるまでには至らなかった。また、記録の掲示は行事や種目によって差が出てしまった。	体力カードは家庭に整理を委ねる方向に改善し、一層の啓発を図りたい。 記録の掲示については組織的・計画的に進めことができるよう改善することが必要である。	△

3. 学校活動全般について

今年度も引き続き「知・徳・体」の調和がとれた児童の育成を目指して教育活動を推進してきた。

継続して重点目標に掲げてきた「学力向上」については、区の調査結果からは現状維持の状況と捉えることができる。しかし、都や国の調査結果では、高学年が基礎的な分野とともに応用的な分野でもよい成果を出していることが分かった。担当分掌の提案する取組を共通理解・共通実践したことはもちろん、校内をはじめとした実践研究も大きな成果を上げていると考える。今後もこの二つを両輪として、力強く学力向上の取組を推進していきたい。

また、豊かな心の育成については、今年度から力を入れている「自己肯定感や自尊感情」の育成に関する取組を一層推進していきたい。国際比較でもその低さは指摘されているが、真に「思いやりのある児童」を育てる上での重要な視点である。本校の学校経営の柱とする基本理念である「夢や希望を育む学校」を実現するためにも、有効な実践や効果検証の方法等について研究していく。

体力の向上については、豊かなスポーツライフの実現するための資質・能力の育成を第一に考え、運動の楽しさを十分に味わわせ、運動の日常化につなげる視点から、体育科授業や運動行事の一層の充実を図っていきたい。

以上のような教育活動を推進するには、保護者や地域の理解や協力が欠かせない。すべての児童の幸せのために、家庭・地域との連携をさらに深め、教職員一丸となって、教育目標の実現を目指して尽力していきたい。

